



新世紀のキャンパス

Campus of New Century

# 鹿児島女子短期大学 高麗町キャンパス



庭園から見て正面にメイン棟の本館、右手は体育館だ。



庭園に面した明るい本館の南側ポーチ。



上空から見るキャンパスの様子。



児童教育学科の学生が保育士の技術を、生活科学科の生活科学専攻の学生が養護教諭の技術を学ぶ第1実習室。

鹿児島女子短期大学は2009年4月、鹿児島市の南側に位置する紫原から、市の中心地である高麗町にキャンパスを移転した。新キャンパスは、明治40年に幼稚園教員養成所の発祥の地となった場所で、同大を運営する志学館学園の本部も隣接する。短大を発祥の地に回帰し、鹿児島中央駅や繁華街まで徒歩10分圏内というアクセスの良さを最大限に生かそうとの戦略だ。

新校地には、もともと学園最古の歴史をもつ附属女子高校があった。しかし、学園に男女共学で中高一貫の進学校ができ、女子高校を2006年に閉校。ちょうど短大の校舎に改修の必要性が出てきた時期とも重なり、短大を移転す

ることになった。

高校の校舎を短大のキャンパスに変える際に不可欠だったのは、実習室の確保である。短大は児童教育学科、生活科学科、教養学科の3学科からなり、資格取得と出口まで責任を持って送り出すのが強みでもある。取得できる資格は、小学校教諭二種・幼稚園教諭二種免許状、保育士証、介護福祉士登録証、栄養士免許証など。高校に食物科があったこともあり、既存の給食管理実習室等を改修すれば栄養士関連は十分対応可能だった。問題は介護福祉士関連の実習室、運動施設である。

そこで、キャンパスのメイン棟となる7F建ての本館を新たに建設した。1F

に事務機能、2Fに図書館、3Fに学生ホールと講義室、4～5Fに介護福祉士・栄養士養成用の実習室と実験室、研究室、6Fに教員養成用の音楽室や美術室、研究室、7Fに100周年記念ホールを設置した。介護福祉士の入浴実習室には、講義室を兼ねた2F建ての東館を建設、体育館も新設した。既存校舎の改修では、西館に講義室と研究室を整備、南館に給食管理実習室、給食実務演習室や、コンピュータ演習室などを整備した。

移転効果は顕著に現れた。定員520人を割っていた入学者数は、2009年に580人、2010年に560人と増加。移転の2年前から準備委員会を立ち上げ、計画を推進してきた田島充治事務局次長

生活科学科の食物栄養学専攻の学生が、栄養士の技術を学ぶ第2実験室。



絵画やピンクの床など、和らげる空間のエントランスホール。



4Fに7室ある講義室のうちの1室。



は、「少子化から定員を減らそうという声もあったが、520人のままで都市型の短大に賭けてみた。教員による日々の熱心な高校訪問とのダブル効果が功を奏した」と語る。

学生の9割が県内出身者で、就職率の高さが地域や高校に周知されている。卒業生の約9割が就職を希望するなか、2005年度以降、常に95%超の就職率をキープ。2010年には児童教育学科を3コース制に改組し、収容定員を増やした。移転を武器に近隣県にも募集を拡大したいという。全国的に短大が募集に苦戦するなかで、地域特性とマッチした成功例と呼べるであろう。（取材・文／本誌 能地）



地域から「休日に借してほしい」と要望が絶えない7Fの100周年記念ホール。

昼休みには学生でいっぱいになる学食の学生ホール。

